

アイデア

を気軽にカタチにできる施設

世田谷キャンパス6号館 学生工房の巻

自由な創作活動を通じて、学生の主体的かつ創造的な学びがさらに加速することを目指し、2023年4月、世田谷キャンパス6号館1階に「学生工房」を開設しました。同施設は3Dプリンターなど安全講習が不要な機器を中心に設置し、初心者でも気軽に使えるように配慮しているのが特長です。学生工房主査を務める機械システム工学科 白鳥教授らにお話を伺い、改めて学生工房の魅力を探ってみました。

工房サポーターが常駐して日々自由に創作を楽しめる

学生工房のプロジェクトは、「学生のための自由なものづくり、創作活動の場を作ろう」というテーマのもと、2022年夏に白鳥先生が中心となってスタートしました。ただ、このときはコロナ禍により、まだ学生たちの活動制限がなされていた時期。白鳥先生は「学生に新たなものづくり施設のニーズがあるのか不安だった」と語ります。そこで先生は、学生に向けたアンケートフォームを立ち上げ、設置してほしい機器や施設に対する要望をヒアリングしました。すると多くの学生が3Dプリンターなどの具体的な機器名をあげるとともに、それらを自由に使える施設を熱望していたと回答。こうした声が開設を後押しする大きな力になったと振り返ります。

そして白鳥教授は、主にアンケート回答者を中心とする学生たちに、施設立ち上げメンバーとしての参加を要請。先生と学生が一緒になって設置機器を検討し、誰もが使いやすい3Dプリンター4台とレーザー加工機1台の導入が決定します。さらに学生メンバーが施設の機器利用をサポートするアルバイト、工房サポーターとして常駐することも決まり、2023年4月から、いよいよ学生工房の本格運用がスタートしたのです。

施設の開放時間は平日の13時～19時。授業期間外も利用することができます(年末年始・お盆は除く)。開設直後から、学部・学科の垣根を超えて多くの学生たちが利用し、1ヶ月平均の利用者は100人を超えるそうです。

施設監督を務める多田先生は人気の理由を次のように分析します。「工房サポーターが、訪れる学生に機器の使い方を丁寧に教えることが好評なのでしょう。機器に詳しくないビギナーでも気軽に利用でき、学生同士の良いコミュニケーションの場にもなっているようです」。また工房サポーターの大久保さんも「みんなこういう自由な創作活動ができる場を待ち望んでいたようです。最近では研究や課外活動で使用する製作物のほか、スマホケースなどプライベートなものの作りを楽しむ学生も数多く訪れています。3Dプリンターはとくに人気が高く、常に予約待ちの状況です」と話します。

なお、施設の名称「学生工房」は、学生たちの投票で決まったものの。白鳥先生は「シンプルですが、都市大生らしい自主性が表れたとてもいい名称。今後も学生の力でどんどん発展させていてもらいたいですね」と最後に語ってくれました。



左から大久保さん、多田先生、白鳥先生。手にしているのは学生工房の3Dプリンターで製作した、学生工房の3Dロゴと戦車のプラモデル。



3Dプリンターのエラーの調査や、原因の説明なども工房サポーターが行っています。



広々とした施設を利用する学生たち。工房サポーターは制作物の相談も受けている。

ワークショップ

学生工房では不定期で学生向けのワークショップを開催。3Dプリンターを中心とした初心者向けの講習会を行って、クリップなどを製作。オープンキャンパスでは一般の来場者が楽しめるワークショップを開催しています。



ワークショップにはさまざまな学科から約30人が参加。3Dプリンターで出力したクリップなどがもらえます。

世田谷祭

学生工房は世田谷祭で一般開放され、工房サポーターが3Dプリンターで製作した「改造おもちゃ」の展示や、設置機器を使った製作体験を実施。2024年は学生が製作したプラレール、パイプレードの対戦体験が大人気となりました。



プラレールに学生工房の3Dプリンター、レーザー加工機で製作したパーツを加えた街作りを展示すると、子どもたちから大好評!